

だれもが住みやすい

地域

をめざして



本市では地域のさまざまな機関と連携し、地域全体で高齢者や認知症の方を支えるまちづくりに取り組んでいます。その一環として高齢者や認知症の方の声を聴き、それを伝え「住みやすいまち」をめざしています。

今回は、認知症の女性が「郵便局がない」と言い道に迷っていたことから、市が郵便局に相談したところ、市内の郵便局が「ワンチーム」となって御坊郵便局に郵便マークの看板サインの設置に取り組

んだ経緯を、御坊郵便局長 鎌谷 博史さん、御坊財部郵便局長 武井 寿樹さん、御坊西町郵便局長 田端 創さんからお話を伺いました。

最近では高齢のお客様が多くなっていると思いますが、どのように感じていますか？

田端氏 最近では高齢化が目に見えて分かるようになってきています。郵便局は地域の皆さんの信頼があつて成り立っているところが、(誰にでも)やさしい郵便局であるようにしたいです。

鎌谷氏 比率としては、高齢者の方は多いです。郵便局のお客様自体が高齢者の方が多くなってきました。

武井氏 昔から来られているお客様が、高齢になられたなと思う方が増えてきました。お客様のために何かしたいが、どのようにしたらお客様のためになるのか市と話をさせてもらって今回いい勉強になりました。

一年ほど前に「郵便局がない」と言つてこられた女性の話を聞いてどう感じましたか？

武井氏 小さな看板はあるので「郵便局がない」と言われると正直びっくりしましたが、大きな看板を目印にやつてこられるお客様もおられるのだなと気づかされました。

田端氏 自分たちが見ている目線は、認知症の方の目線とはまた違うものだなと気づかされました。認知症のご本人にしか分からないことを聞くことで、気づくことがあり、自分たちだけであのサインを付けようという声は出なかった気がします。そういう意味で、市と情報共有できたことは本当に良かったと思います。

看板(サイン)が設置されてお客様や市民からの反応はどうでしたか？

田端氏 新聞などにも取り上げられていてお客様からも「分かりやすいな」との声も頂いています。

武井氏 「そういえばなかったよね」と言われることもありました。



鎌谷氏 私4月に着任してこの話を聞いて自分自身も(サインを)見て分かりやすいなと感じました。

認知症の方だけでなく、初めて訪れた方にも分かりやすいようにしていくことが大事なことだと感じました。

改めて、今回の看板(サイン)設置の経緯を振り返り、認知症の人を含め、誰もが暮らしやすいまちのために、郵便局としてできることは？

田端氏 来客されたお客様で困っている方がおられれば支えになりたい。地域に寄り添っている郵便局として、できることなら何でもやっていきたい。自分たちの中でも気づいていないところ

もあるので市の方から提案していただければ対応していきたいと思っています。

鎌谷氏 地域のお客様にとつて一番身近な存在でありたい。高齢者だけでなく小さなお子様にも困ったときには、すぐそばで何か手助けができる存在でありたいと思っています。

武井氏 建物のバリアフリーだけでなく私たちの会社は「トータル生活サポート企業」として最前線で私達がどうしたらお客様のサポートになるのかを仕事を通じて考えていくことが大切だと思います。自分たちだけでは、気付かないこともあり市の方からのアドバイスもいただき色々勉強していきたいと思っています。